

選挙管理委員会委員が選任

選挙管理委員会委員の任期満了に伴い、6月議会定例会で次の方が選任されました。

▶ 任期=令和6年7月25日～令和10年7月24日

▶ 委員長=藤田 守夫さん

▶ 委員長職務代理=蓬田 正美さん

▶ 委員=上野 礼子さん

秋山 幸さん

▶ 補充員=佐藤 俊夫さん

北山 正一さん

宇津木 加代子さん

秋山 喜美子さん



藤田守夫さん



蓬田正美さん



上野礼子さん



秋山幸さん

A-1合同会社へ感謝状贈呈

上三川町出身の宮澤栄一さんが代表を務めるA-1合同会社より、上三川町へ企業版ふるさと納税として2,000万円の寄附を頂きました。

6月21日、星野町長が宮澤さんを訪問し、感謝の意を表し感謝状を贈呈しました。宮澤さんは、「上三川町の振興のため役立ててください」と話されました。頂いた寄附金は、まち・ひと・しごと創生に資する事業へ活用します。



上三川町干びょう推進対策協議会が“ふくべ”を贈呈

7月10日、上三川町干びょう推進対策協議会から、上三川町立学校給食センターに、“ふくべ”約200kg(30個)が贈呈されました。

これは、本町の伝統特産物であるふくべを学校給食に提供し、子供達に食育の推進や地産地消の大切さを伝えることを目的として贈られました。

贈呈された“ふくべ”は、翌日の給食の「ふくべのスープ」としておいしくいただきました。



同協議会会長 海老原悟さんと氷室清教育長



明治中学校の様子

町の話題

夏季点検

6月29日、上三川町消防団及び上三川消防署の夏季点検が富士山公園のグラウンドで行われました。

夏季点検では、点検者である町長が団員や署員の「人員並びに服装点検」を実施し、稲葉長広いなばながひろ団長や北條好彦署長の指揮のもと、団員と署員が規律ある動作で点検を受けました。その後、消防団が各部ごとに分かれて一斉に放水点検を実施しました。

指揮者の指示により、筒先、ホース、消防ポンプの操作を行い、水槽から水を吸水して、放水するまでの災害時に近い実践的な点検をすることで、日頃から緊急時に備えています。



防災研修会

7月27日、地域の防災力強化を目的とした住民向けの研修会が上三川いきいきプラザ大会議室で行われ、地域防災力の核である自主防災組織と消防団員の計36名が参加しました。

本研修会は、「災害を知る!地域を知る!人を知る!」をキーワードに大地震を想定した災害図上訓練となっており、参加者はグループに分かれ町内各地区の危険箇所やトイレ、コンビニ、商業施設などの防災に関する情報を参加者自身で白地図に書き込みました。地域のウィークポイントを知り、被災状況をイメージすることによって、いざというときに組織的にどのように行動すべきかを検討しました。



“社会を明るくする運動”

7月1日、内閣総理大臣メッセージ伝達式が行われ、“社会を明るくする運動”の「街頭啓発」が、町内のスーパーマーケット及び石橋駅で“社会を明るくする運動”上三川町推進委員会主催により行われました。関係各団体からの参加により、啓発物を配布しながら呼びかけし、この運動に目を向けていただく機会となりました。強化月間ということで、あいさつ運動も各学校で行われました。

また、7月31日には、ORIGAMIプラザ上三川日産ホールにて“社会を明るくする運動”inかみのかわを開催。運動の趣旨を伝えられるこの機会に合わせて、警察官による講話、作文コンテスト入賞作品発表、ホテルの飼育活動発表、ハーモニカや吹奏楽演奏が行われ、地域の方にたくさんご協力いただきました。社会を明るくしていくこと=地域の人々の繋がりが“地域のチカラ”となり、犯罪や非行を防止できるよう、今後も運動を推進していきます。



交通安全の願いをこめて

7月3日、ORIGAMIプラザふわふわドーム付近にて、下野地区交通安全協会女性部会上三川支部による七夕飾りが実施されました。

事前にORIGAMIプラザ内に設置した七夕BOXには、願い事が書かれたたくさんの短冊が集まりました。遊びに来ていた子どもたちと一緒に、交通安全の願いをこめて、一つひとつ丁寧に飾り付けを行いました。



赤十字防災セミナーが開催されました

日本赤十字社栃木県支部の指導者による赤十字防災セミナーが、上三川町赤十字奉仕団主催で行われました。

セミナーでは、日本赤十字社の紹介から始まり、災害の備えについて、実際の災害状況の写真から“危険”を再認識し、“地域を知ること”や“自分にしかできないことは自分で備える”ことなど多く考えさせられました。

また、ワークシートを使った家具安全対策ゲームを行い、自分の家の危険がどこに潜んでいるかを改めて確認。

災害への備えは、自分を守るためにいつかそのうち…ではなく、今日から、できることに取り組んでほしいとお話があり、「また受講したい」との感想が聞かれました。

上三川町赤十字奉仕団では、この充実した時間を今後多くの方に展開していきたいと考えています。



自分にしかできないことは自分で備える

過去の災害で無くって困ったものにあげられたのは、普段使っているモノや物類です。本人確認ができる食品・飲料類などがあります。災害発生時の暮らしを今一度見直しましょう。必ず自分自身で目視から確認することが重要です。

1. 非常持ち出し品の準備

それがないと生活に支障が出るモノは一人ひとり異なります。自分自身で必要なモノを準備して、非常持ち出し袋などにに入れておきましょう。また、非常持ち出し袋は必ず取り出せる場所に置くことにも、自分自身で確認する必要があります。

【あなたが必要なものをおためてみて下さい】



2. 水や食料などの備蓄

災害発生後は水や食料が不足することがあるので、日頃から蓄えておくことが大切です。備蓄する食料には乾パンや缶詰などがありますが、自家備蓄（ローリングストック）という方法で、普段食べているモノを災害時にも食べられるようにする効果があります。

自家備蓄（ローリングストック）

自家備蓄とは、食料を定期的に入れ、食べ残しを新しい食料と入れ替える方法です。これにより災害時にも食料から食べ残しを消費することが出来ます。



キッズ用テーブルが贈呈されました

7月16日、ORIGAMIプラザにてキッズ用テーブルの贈呈式が行われ、星野町長が（株）早川工業ならびに（株）ニチユウの早川雄基社長と早川剛幸会長へ感謝状を手渡しました。

キッズ用テーブルは、折り紙をモチーフにしており、現在ORIGAMIプラザ内ふれあいラウンジに常設しています。どなたでも自由に使用することができ、連日たくさん子どもたちが折り紙作りを楽しむ様子が見られます。

